

2016 年度 後期

## 授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科



# 授業改善アンケート調査結果

## 1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2010年度後期より KOAN 上でのアンケートになったが、2014年度前期以降、再び授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更した。今年度の実施期間は以下の通りである。

2016年度後期アンケート回答期間：2016年1月10日～2月14日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義科目である。対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は69.7%であった。(2015年度後期：67.8%)

2016年度後期授業改善アンケート 対象科目数・回答数

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通科目	1	12
	行動系科目	13	633
	社会・人間系科目	11	478
	教育系科目	11	480
	G 共生系科目	3	153
	その他	3	23
大学院科目		31	163
G30 科目		17	90
計		90	2032

回収数 2032 / 受講登録者数 2917 = 回収率 69.7%

- ※1 基礎科目は、行動、社会・人間、教育、G 共生系科目に割り振られている。  
2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメント、さらに、2015年度からは、授業担当教員による昨年度からの改善点についてのコメントの提出を求めている。次回の授業の改善に役立てられている。

## 2. 授業改善アンケートの結果

2016 年度後期の授業改善アンケートの回収率は 69.7%であり、マークシート方式が採用された 2014 年度以降、例年 70%前後を推移している（2014 年度前期 70.1%/後期 68.5%、2015 年度前期 67.8%/後期 67.8%、2016 年度前期 70.0%）。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については 3.97 であり、学生の授業への満足度は高い値を示している。学系別集計によれば、学部科目中とりわけ G30 科目の値が 4.31 と突出しており、学生の 51.1%が「非常に良かった」と回答している。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問 1 の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 77.0%と、2015 年後期の 71.9%から 5%以上増加した。また、問 2 の「この授業の予習・復習にあてた 1 週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に関しては、「ほとんどなし」と回答したのが 56.4%となっており、41.8%まで改善された前回の調査（2016 年前期）から再び高い値となっている。2015 年度後期の 64.4%と比べるとやや改善傾向にあるともいえるが、依然として半数以上の学生が予習・復習をほとんどしていないというのは問題であるだろう。自宅での自主学習については、前期と後期、あるいは授業の形態に左右される面も多いが、授業外での自主学習を促す工夫がさらに必要である。

問 4 の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は 3.78 であり、2015 年度後期 3.55 からわずかに上昇した。とはいえ、30%ほどの学生が「そう思わない」「まったくそう思わない」と回答しているため、授業についてきていない学生を考慮する必要があるかもしれない（2015 年度後期 35%、2016 年度前期は 26%）。

また、問 3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては約 7 割以上が「適切」であると回答している。シラバスについての問 5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対しては 54.8%が「そう思う」と回答しており、いずれも例年通りの値である。問 6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「強くそう思う」12.4%、「そう思う」58.3%であることから、シラバスに即した授業運営が実施されていると言える。問 8 の「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？」は 3.89 とほぼ例年通りであり（2015 年前期 3.81/後期 3.78、2016 年度前期 3.98）、問 9 の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」は 3.82 と、前期 3.75 と同様に一貫して高い値となっていた。

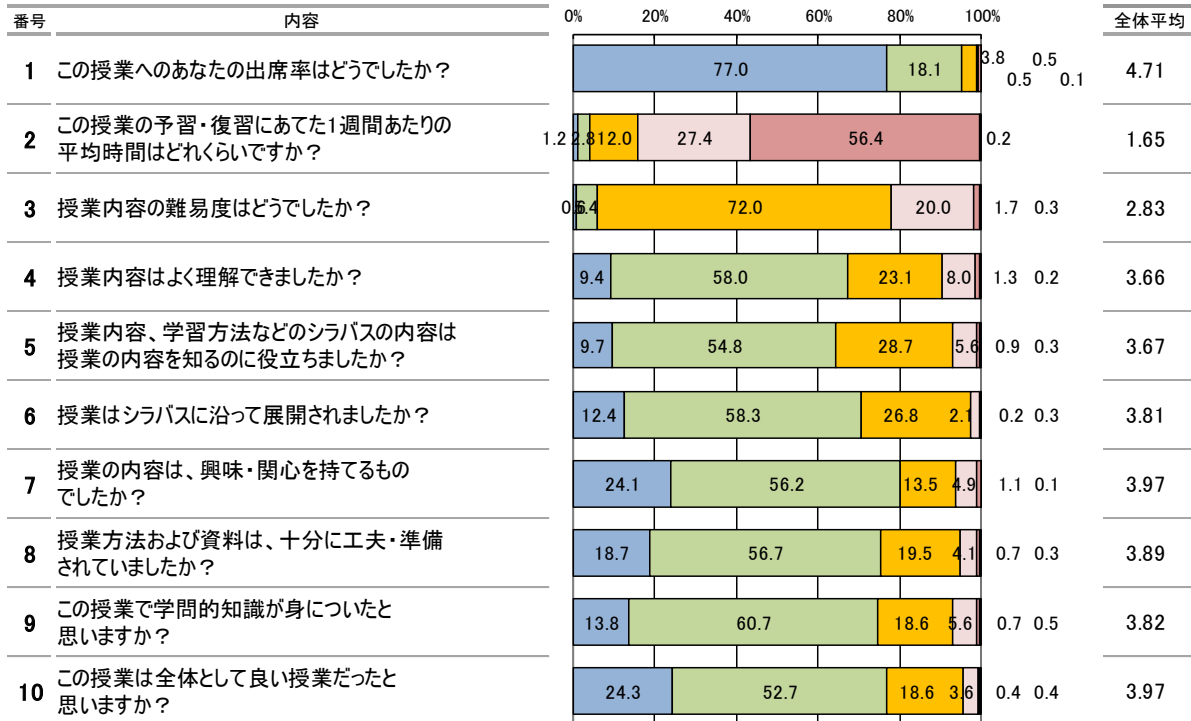
以下より、2016 年度後期の授業改善アンケートの結果の詳細を示す。

※学系別集計（p. 4）については以下のように集計している。

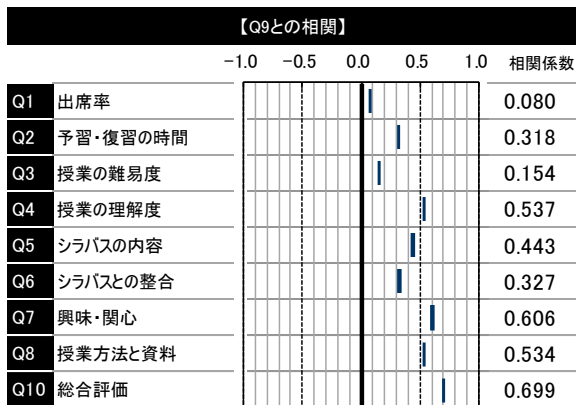
- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会人間・教育・G 共生科目に割り振られている。

- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

<b>全体集計</b>	履修者数	2917
	回答数	2032
	回答率	69.7%

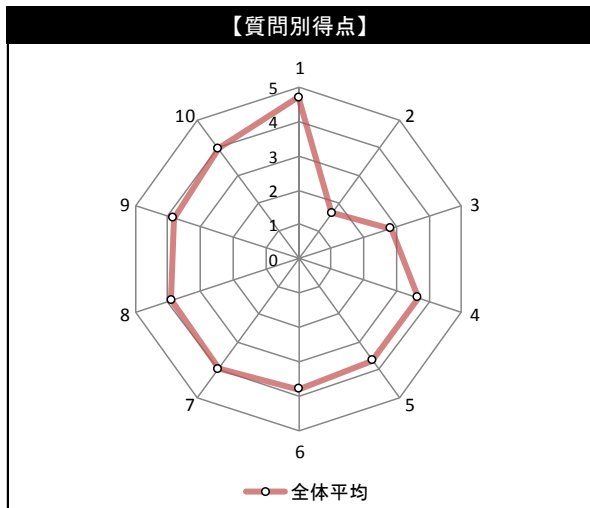
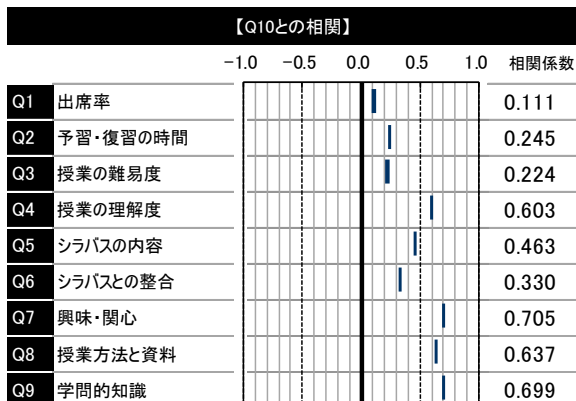


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	不明(無回答を含む)
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

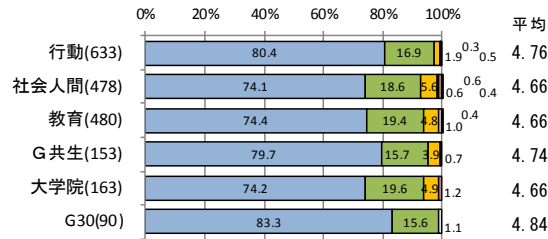


## 学系別集計

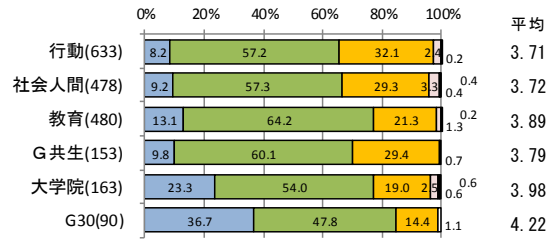
※グラフ内数字は回答率(%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明(無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	

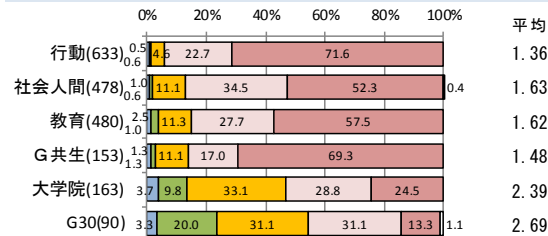
### 1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



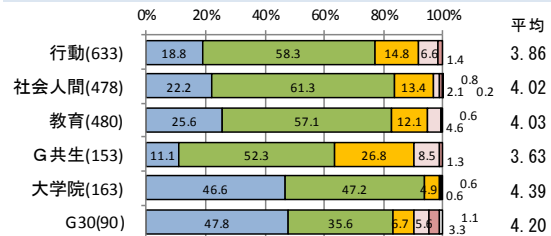
### 6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



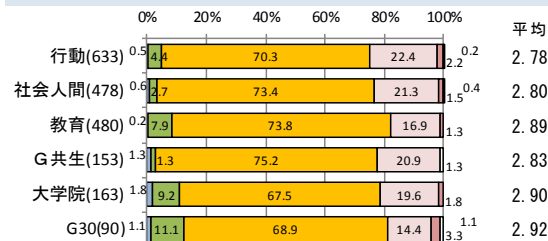
### 2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



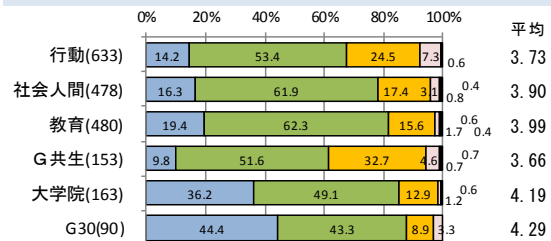
### 7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



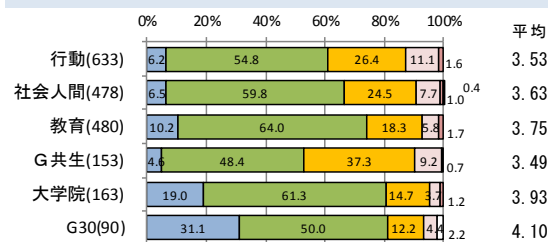
### 3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



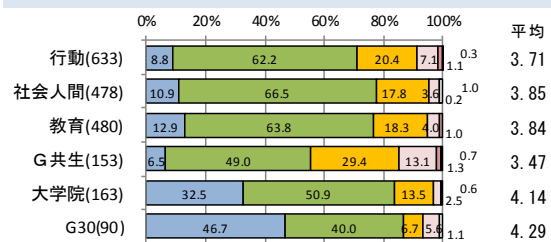
### 8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



### 4. 授業内容はよく理解できましたか？



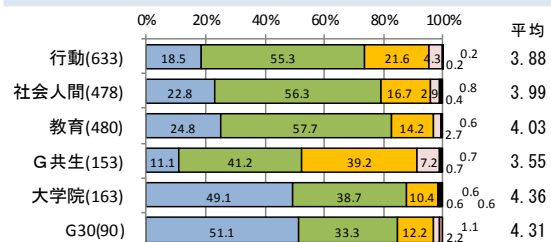
### 9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



### 5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



### 10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 88 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 44 科目であり、平均値 3.97 を上回ったのは 26 科目であった。

2016 年度後期講義科目  
満足度上位の科目一覧

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	社会心理学特講 II	10	4.67
2	コミュニケーション社会学	61	4.60
3	基礎心理学	28	4.47
4	Diplomacy, Economics and Politics in Japan	13	4.43
5	教育コミュニケーション学 I	11	4.42
6	Special Topic in Human Sciences II (Research Design Seminar)	55	4.36
7	教育心理学 I	45	4.33
8	教育工学 I	24	4.31
9	経験社会学	11	4.31
10	社会科・公民科教育法B	15	4.25
11	臨床心理学 I	45	4.24
12	人類学理論	29	4.23
13	比較福祉論 I	38	4.17
14	International Development and Collaboration II	15	4.15
15	共生教育学	70	4.15



### 3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

佐藤 眞一	行動学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒学部1年生の行動学の入門科目で、研究分野の異なる6名の教員がオムニバスで実施した。学生からの意見や要望をみると、オムニバス授業のため、担当教員によって方法や資料提供が異なり、難易度にもバラツキがあるため、評価が分かれたようである。配付資料については、学生の理解度が高まり、興味を深めるために再考したい。来年度は、担当教員や授業内容を見直し、基礎教育科目としての充実を図る予定である。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒担当教員には評価についての観点を示し、取りまとめ役教員が全教員の評価を基づいて最終的な評価を行った。</p>	

吉川 徹	社会学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒この年度から新たに始まった講義だが、標準的な評価結果を得ている。よって、この授業形態で、さらに内容をアップデートしつつ進めていくことにしたい。他概論との差異化を図ってほしいとの意見が出ているが、1年次に必修概論の数が多く、重なりがあることについては、本授業の担当者の検討の範囲を超える大きな問題であるので対応は難しい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒該当しない。</p>	

西森 年寿	教育学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒教育学概論は今年からスタートした授業です。概論という授業の制約上、通常の専門授業と同じ観点で評価することは難しいのかなとも思いますが、とにかくも、まだまだ試行錯誤の段階の授業ですので、頂いた意見などをもとに今後改善策を教育学の教員の間で積極的に考えていきたいと思えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

志水 宏吉	共生学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒開講一年目で、手探りで授業を運営していった。授業評価アンケートでは、授業全体の数値とほぼ同等の結果がすべての項目で出ている。さらに改善を続けていきたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

金澤 忠博	比較発達行動学・比較発達心理学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒月曜朝 1 限という時間帯ではあるが、今年は多くの学生さんが真面目に出席してくれ講義にも自然と熱が入った。リアクションペーパーに毎回感想や質問を記入してもらい質問への回答を次の講義の冒頭で行った。鋭い質問が多く大変刺激になり、受講生とのコミュニケーションにもなるので今後も続けたい。新たな知見をリアルタイムで追加していくように心がけたが、資料や説明が盛りだくさんになりすぎて消化不良になっていると思うので古い情報から整理していく必要性を感じた。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒予習ができるように資料を使用する予定の時間の 1 週間前には配布するようにした。しかし、アンケート結果にその効果が見られたとは言いがたく、宿題を出すなど、さらなる工夫が必要であると感じた。</p>	

山田 一憲	比較行動学
<p>教員コメント</p> <p>⇒グループワークや議論を取り入れて欲しいとのコメントがありましたので、次年度に取り入れてみたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒特にありません。</p>	

山田 一憲	比較行動学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケート回答者は 3 名でした。期末試験では素晴らしい回答があり、アンケートでもそれなりの評価をもらいましたので、問題なく授業が進められたと思っています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒特にありません。</p>	

中野 良彦	生物人類学・生物人類学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒講義形式であり、大半の受講生にとって専門外の部分が多いため、予習・復習の時間が少なくなることは否めない。また、同様の理由で、難易度を低めにし、理解度を高くすることに重点をあてたが、その点はある程度結果に反映されていると考える。ただし、授業ペースがやや早かったことは確かに感じており、この点は改善する予定である。シラバスと異なる内容として、授業時間と同時間帯に、生物人類学に関連する外国人研究者の講演が人間科学セミナーとして開かれたため、そこへの出席を授業としたことがあった。しかし、こうした変更は、受講生に有益であったと考えており、今後も臨機応変に行いたいと考えている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度は、急遽、担当することとなり、引き継ぎもなく前任者のシラバスに沿った授業を行う必要があったため、内容を消化するのに精一杯であったが、今年度は自分で内容や進捗を計画することができたため、前年度より格段にまとまりのある授業を行うことができた。資料についても、追加、削除、更新を行い、より内容に沿ったものにした。</p>	

渥美 公秀	ボランティアの集団力学・共生行動論特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度も非常に熱心に講義を受けてくれました。今年の最大の問題は、月曜日振り替えで本来の授業時間が、別の授業にあてられていることを認識しないまま、その日に試験を実施する予定を立ててしまっていたことでした。間際に気づき、結局レポートにしました。こうした事前に準備すべき事柄を確認せずにいたことで受講生にはご迷惑をおかけしました。このことを反省しながら、周到に授業計画を立て、進めていきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒配付資料や出席、レポートの時期などは改善できたと思います。</p>	

森川 和則	基礎心理学・基礎心理学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業改善アンケートの質問7～10は人間科学部・研究科の全体平均を大きく上回っているもので、好評であったと言えます。シラバスに沿っていたかという質問には、学部生の評価は全体平均をわずかに下回りましたが、院生の評価は全体平均をかなり上回っていたので、必ずしもシラバスに問題があるとは思われません。ただし、質問2の予習・復習にあてた時間は全体平均を下回りました。今後は宿題などの課題を増やしてみましょう。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業中に配布するハンドアウトをCLEからダウンロードできるようにしたことは大きな改善点です。テレビ番組ではないので一話完結にする必要はないとは思いますが、トピックの途中で授業時間が終了しないようにタイミングを調整して、できるだけトピックの終わりと授業時間の終わりとが一致するように心がけました。</p>	

釘原 直樹	集団力学・社会心理学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒本講義の質問別得点の得点パターンは、全体平均のパターンとほぼ一致しており、学生には普通の講義と見なされていたことがうかがえる。ただ、院生と学部生で評価に少々ズレがあったので、その原因について今後考えてみたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

青野 正二	環境心理学・環境行動学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度の授業では、従来に比べて、授業方法・資料の工夫・準備（質問(8)）および興味・関心（質問(7)）が上がっていた。授業内容自体は例年とほぼ同じものであったが、今年度は、（すべてではないものの）具体的な事例を多くしたり、またそれらを理論的な説明より先に提示することも行った。さらに来年度へ向けて、授業の工夫に関する自由記述での指摘事項について検討していきたい。一方で、難易度（質問(3)）がやや易しいにもかかわらず理解度（質問(4)）がやや低くなっているのは、理論的な箇所の説明に問題があったのかもしれない。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度の課題として、受講生からの指摘もあり、具体的な研究例を増やすことや資料の工夫をあげていたが、ある程度の改善がみられた。</p>	

臼井 伸之介	安全行動学・安全行動学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒配付資料の中で、特に統計データなどの更新をしてほしい、との指摘があった。これは例えば事故データなどの経年推移の最新が数年前となっているような図表が散見されたからだと思う。次年度は資料のアップデートに努めたい。授業評価は全体的に平均とあまり変わらない結果だったので、興味・関心、授業の工夫などの項目がより高評価となるように、次年度は授業内容やプレゼン方法など一部見直したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒講義室を 33 室に変更することで、履修生のスペースをやや広くすることができた。ただ、椅子は昨年と変わらず固定椅子のため、グループ討議のしやすさは変わらなかったように思う。</p>	

佐藤 眞一	臨床死生学・老年行動学・臨床死生学・老年行動学特講 II(A)
<p>教員コメント</p> <p>⇒研究分野の専門 2 科目のうちの 1 科目である。3 名の教員によるオムニバス講義であったが、授業内容については事前に調整して内容が重ならないように工夫した。全般的には高評価であった。超高齢社会の現代に生きている者として、学生も新しい知識や情報を得ることができ、思考を深めることができたものと思う。今後も、心理学・行動学に基づく基礎的な思考法はもとより、新たな知見をわかりやすく伝えたいと思量する。一部の教員の授業資料が配付されないため、配付の要望があったので対応したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒予習・復習の時間が全体平均レベルのままで向上しないため、学生に身近な内容等を取り上げることを意識して授業を組み立てるようにした。引き続き参考図書を提示して、自己学習時間の向上を図りたい。</p>	

篠原 一光	応用認知心理学・応用認知心理学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒講義内容についてはほぼ例年通りで、変更は部分的な改善を行う程度だった。講義の分量は昨年度よりも減らしたため、例年の反省点であった後半で急ぎ気味に進行してしまうという点は若干改善したのではないかと考えている。但し授業内でのディスカッションや、授業外の課題については昨年よりも実施量が減ったように感じられるため、来年度はこの点を改善したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒講義の分量の調整を行い、進行上無理のない内容に近づいた。</p>	

友枝 敏雄	社会学説史・社会学説史特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒講義の最初 5 分～10 分で時事的な話題もしくは勉学への心構えを話したのですが、これが無駄という意見もあったようです。昨年度はこれがよかったという意見をもらいました。受講生全員を満足させるような講義のやり方は、つくづく難しいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒出席している院生に、5 分～10 分程度の発表をしてもらい、院生の意欲を高めようと思いました。院生には高評価でしたが、発表の機会のなかった学生には、疎外感をもたせてしまったようです。「あちら立てれば、こちら立たずで、なかなか難しいな」というのが率直な感想です。</p>	

吉川 徹	経験社会学・経験社会学特講
<p>教員コメント ⇒熱心に聞いてくれました。熱心に教えました。コメントもありがとうございます。参考にします</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒配布する講義資料をアップデートしました。</p>	

齊藤 弥生	比較福祉論 I・比較福祉論特講 I
<p>教員コメント ⇒秋冬の一限の講義にもかかわらず、履修者の皆さんの多くが最後まで出席してくれたことを嬉しく思います。皆さんからのコメントにお答えします。「ポートフォリオの 4 行には質問など書ききれない」→短時間に短い言葉で、自分の意見を端的にまとめる練習だと思ってください。その代わりに、関心が高いテーマについては、記憶が鮮明なうちに自分でまとめておき、最終レポートにぜひとも反映させてください。必ず力がつくはずです。「ディスカッションの時間が欲しかった」「学生がアウトプットして議論する時間があれば当事者意識がもてる」→これは私の反省点です。29 年度はターム制科目として、秋学期に 2 時間ずつ、7 回の講義となります。学生の皆さんが参加できるよう、アクティブラーニングの手法を取り入れていきたいと思っています。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒難易度が高いという指摘に対して、よりわかりやすく、繰り返し説明をするよう心がけました。今年度はおおむね理解ができたという回答が多かったのでよかったと思っています。次年度も幅広い学年が履修していることを意識して講義を進めたいと思います。</p>	

牟田 和恵	ジェンダー論・ジェンダー論特講
<p>教員コメント ⇒授業外の学習を促すため、複数の小課題を課しているが、質問 2（授業外の予習復習時間）について、一般の学部生と G30 生、・大学院生ではかなり差があった。課題に求める水準をできるだけ具体的にすべきであろう。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒例年、受講生の関心に近づけて講義するよう努めているが、とくに今期は授業予定内容に関連する事件やニュースが起こったので、予定順を変更して講義した。</p>	

辻 大介	コミュニケーション社会学
<p>教員コメント ⇒昨年度から総合評価（Q10）が 0.11 ポイント上がって 4.60 でした。全体平均も 0.63 ポイント上まわっているので今後も高評価を保っていききたいものです。「毎週来るのが楽しい授業でした！」というコメントも嬉しく思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒毎年少しずつ講義内容を修正していったことが高評価につながったものと思いますが、これまで扱いきれなかったことも多いので、その部分を中心に来年度はかなり内容を変える予定です。</p>	

中山 康雄	認知システム論・認知システム論特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒昨年度とは、講義科目が異なるので単純に比べることができないが、評価には改善が見られた。ひとつには、講義のテーマが受講学生にとってより興味のあるものだったためと思われる。特に、高評価の学生が数名いたことは自分にとっては喜ばしいことである。また、学問的知識が身についたとする評価にも改善が見られた。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒基本的に昨年度と同様の形式だが、小レポートで出された前の授業の質問により丁寧に回答する努力を行った。</p>	

村上 靖彦	現象学的な質的研究特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒頂いたコメントではそれほど問題がないかと思うのですが、次年度はより学生さんの主体的な参加を促す仕組みを導入したいと思っております。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒とくになし。</p>	

檜垣 立哉	現代思想論・現代思想論特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒二人の教員の授業になって、後半五回の非常勤の先生のプログラムがシラバスに指示できなかったため、少しシラバスとの即応度はあったが、基本満足が得られていることはよいことだとも思います。知識というよりも考えさせるということを目指して授業をしたつもりであるはこの点はうけいれられているようでよかった。一部分野の学生さんにはうけがわるかったが、これは少人数であり一個人の意見が強くでるだろうことからやむなしとおもう。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒より社会の現実的な問題につなげるため、ビデオや映画を多用した。この点は賛否両論あるがまあよかったのではとおもう。</p>	

檜垣 立哉	共生の人間学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒特講についてはサンプル数が少なくなんともいえないが、学部授業と同様の評価であったと考えられる。二人の教員でやっているところで、シラバスが余り即応しないケースがでてくる。この点は改善の必要がある。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒ビデオ、映画など社会や時代に連関するものはより映像を使うようにしている。</p>	

Schwentker Wolfgang	比較思想史・比較思想史特講
<p>教員コメント ⇒アンケートの結果を確認しました。全体として問題がないと思います。学生からの自由回答記述ではレジュメが必要とありましたが、私としては学生が自分でメモを取ることで習得してほしいと考えています。</p> <p>履修者が様々だったので授業を進めていく上で標準を合わせるのが難しかったです。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒今年度は配布資料を増やしました。</p>	

中川 敏	人類学理論・人類学理論特講
<p>教員コメント ⇒シラバスの充実をこころがけたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒授業の内容の一貫性を保てた。</p>	

志水 宏吉	学校社会学特講
<p>教員コメント ⇒他の科目と比べると、予習・復習にあてた時間がかなり長くなっている。グループ別の発表を取り入れたことの影響と思われる。次年度もこの方針を続けていきたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒学部生と院生が参加している授業なので、両者が意見を交換する局面を増やすよう心がけた。</p>	

高田 一宏	コミュニティ教育学
<p>教員コメント ⇒評価については全体平均から大きな隔たりはないが、ふだんの出席率は例年より低めで、アンケートの回収率は約3割にとどまった。折を見て配当年次（今は3年次の後期配当）を見直したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒授業の資料（映像、写真・歴史的な史料など）の精選・見直しを図りたい。</p>	

老松 克博	臨床心理学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒臨床に関するオリエンテーションは、おそらく受講生ひとりひとり、相当に異なっています。とくにこの領域では、その多様性が甚だしいため、イメージを用いる臨床にもともと関心が薄い受講生にとっては、かなりの忍耐力を要する授業だったかもしれません。実際の臨床は、多くの受講生の皆さんが信じ込んでいるほど合理的に進められるものではないし、エビデンスにもとづく知識ですませられるものでもないでしょう。私としては、皆さんのなかに、宗教性や信仰心（きわめて広い意味での）に対する必要最小限の関心がなくなってきつつあることに懸念を感じます。不合理な意味不明の展開と「今ここ」で格闘することの苦しさや奥深さが少しでも伝わってほしい、と願っています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒参考になる文献などを予習用に紹介するのは実践に役に立たないと考え、行なっていません。ふだんの生活や何気ない日常に紛れ込んでいる素朴な癒しの要素を見直してもらうために、例年以上に詳しいイメージの拡充と解説を行なったつもりです。</p>	

近藤 博之	教育動態学・教育動態学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒最終提出レポートにインターネットからの剽窃が少なからずあったことが残念でした。引用部を区別し、出所を明示していればよいのですが、文章の一部でそれらしく出所に言及し、他の部分はさも自分で考えたかのように粉飾してレポート全体を改作文章で埋めるという悪質な例が複数ありました。学生諸君には、そのようなことをしても、少し調べれば直ぐに分かってしまうことを理解しておいて欲しいと思います（もちろん優れたレポートも多数ありました）。全体の評価が低いのはこちらの反省点として、次年度の授業で工夫していきたいと思えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

三宮 真智子	教育コミュニケーション学 I・教育コミュニケーション学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒概ね良好な結果であったが、回答した大学院生と学部生の評価の差がやや目立った（特に、Q2, Q7, Q8, Q9, Q10）。院生は全員が全回出席であるのに対し、学部生は就活・部活その他で欠席率の高い受講者が含まれていたことも一因であろうし、また、もともとの関心や熱意の違いが反映されたとも考えられる。今後、さらに主体的な活動を盛り込み、授業外での学習時間の増加を図る予定である。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒今回、受講者数がかなり多かったため、「コミュニケーション・ペーパー」を活用して、できる限り受講者とのコミュニケーションを図るよう努めた。</p>	

近藤 博之	教育と社会
<p>教員コメント</p> <p>⇒1限目の授業で毎回きっちり出席するのは難しい面がありますが、たしかに全体として受講生の関心をつなぎとめることができていなかったように思います。ペーパーでの質問と応答の機会は設けましたが、授業中の質問がほとんどなかったのが残念でした。また、試験の結果も全体によくありませんでした。次年度は、もう少し評価を上げるように工夫していきたいと思えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	



高田 一宏	教育文化学
<p>教員コメント ⇒各項目の評価点は全体平均よりも高めだが、問 2 (予習・復習) だけは全体平均を下まわっている。事前にテキストを読んでくるように伝えてはいたのだが、周知されていなかった。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒テキストの内容がやや古くなってきたので、補足の資料の充実を図った。また、教育改革の最新事情についても、新聞記事などを使って紹介するよう心がけた。</p>	

園山 大祐	比較教育制度学
<p>教員コメント ⇒授業受講ありがとうございました。難民や移民の問題が国内外で議論されているだけに、日本における受け入れ制度について考えるきっかけになればと思います。みなさん、レポートよくまとめられていました。すべての章を扱うことができませんでしたが、多くの学生はテキストを通読することで理解を深めておりました。配布した新聞切抜きにもコメントをいただきありがとうございました。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒テキストと配布レジュメ、そして新聞解説や文献紹介を行ったことでレポートの内容がより豊かになったと感じます。</p>	

藤岡 淳子	教育心理学 I
<p>教員コメント ⇒参考にします。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒最新の犯罪からの離脱理論を加えた。</p>	

佐々木 淳	臨床心理学 I
<p>教員コメント ⇒教科書をベースに、臨床心理学全般の様々なトピックを扱う授業スタイルに変更した2年目の授業でした。近年、受講生同士の意見への興味が強まっているように感じていましたが、今年の授業でもコメントシートからそのことを読み取れましたし、答えのない問いを考えたいという方向性も強く感じました。そのため、今年の授業ではディスカッションを多めに入れたりなど工夫をしましたが、授業評価を拝見して、ある程度は希望に添えたのかなと感じています。ちょっと難しい問いを設定しているかもしれませんが、来年度はよりそれを充実させたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒ディスカッションの問題や時間を増やした点。</p>	

澤村 信英	国際協力学 II・国際協力学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒学部生が 20 人、大学院生が 4 人という受講生の割合であったが、学部生にとっては英語での授業ということで、日本語での補足説明は適宜行ったが（逆に日本語を解さない留学生には一般に不評）、理解が進まなかった面もあったかもしれない。あるいは、国際開発・国際協力という実践志向の学問でもあり、新たな教科書的な知識を得たい、という学生にとっては、授業の展開がそうはなっていないので、不満もあつただろう。一方で、大学院生はこの分野に関心の高い学生だけが受講しているので、比較的肯定的なアンケート結果になっている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

中道 正之	Primatology in Japan・日本のサル学
<p>教員コメント</p> <p>⇒英語による授業で、G30 学生、OSSEP 学生、さらに人間科学部の学部生が受講していたので、学年も母国語も、専門も異なる学生の集まりでの講義となった。授業中には積極的に意見や感想を述べてもらうようにした。また、嵐山モンキーパークでのサル観察学習の機会も設けた。このような取り組みをしたが、その割に学生評価は全体の平均を少し上回る程度であり、問題点を見出し、改善する必要があると思っている。特に、TA の学生から、専門用語を平易な英語で表現するように指摘を受けた。今後は、このことに留意するとともに、さらに、短時間(例えば、2, 3 分)のビデオでの行動の紹介も含めた授業をさらに、進める必要があると思う。</p> <p>OSSEP の学生から、阪大に短期留学してきて、授業中に日本人学生と初めて会話する機会ができたという喜びの声を聴いた。この科目が、多様な学生の交じり合い、融合の場となっていることがわかり嬉しく思っている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒配布資料に前年よりも詳しい説明を加えること、議論の時間を多くとるように心掛けた。</p>	

Robert Scott North	Seminar in International Labor Theory
<p>教員コメント</p> <p>⇒In the survey and in person, students have told me that the course is both challenging and stimulating. It helps them understand fundamental structures of modern society which they need to know to position themselves for employment, or make other choices. This year's class were gratifyingly easy to teach, and I hope they will continue to reflect on the principles and problems raised in our discussions.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒I reduced the theoretical portion of the course slightly. Reading "The German Ideology" takes time and seems less than perfectly related to contemporary labor issues, but it is the heart of Marx's explanation of the contradictions of capitalism. I will have to work harder to streamline this part of the class. Still, students deserve to spend some time with this conical text.</p>	

Schwentker Wolfgang	Contemporary Japanese Thought
<p>教員コメント⇒</p> <p>I checked all personal comments of students and the evaluation in general. I received a couple of positive comments and some negative comments. Some students in English classes asked for resumes of the content which I strongly rejected. It is the duty of students to take notes. I consider taking notes as a crucial way of learning.</p> <p>I am prepared, however, to submit learning material a week earlier than usual in order to give students the opportunity to prepare classes.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒Compared to the classes last year I provided students in 2016/17 with more reading material.</p>	

権藤 恭之	Psychology of Aging
<p>教員コメント ⇒履修者の興味が、高齢者心理よりも高齢社会全般になりがちであるので、心理的な側面に興味を持つように授業内容を改善する必要があると感じた。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒授業外課題を増やした。</p>	

澤村 信英	International Development and Collaboration II
<p>教員コメント ⇒アンケート結果は、受講者によりかなりばらつきがある。これは国際開発・国際協力という授業の性格によるところもあるが、受講生の約8割（13人）は特別聴講生（短期の交換留学生）であり、限られた英語での開講授業の中で、授業内容にそれほど関心がなくとも、履修せざるを得ないということもあったかもしれない。これら留学生の授業中のインタラクションやリアクションが限定的であったことは、そもそもの関心が必ずしも高くなかったという表れでもあろうし、全体として授業づくりが難しかった。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒</p>	

Philip Streich	Peace and Conflict Studies II
<p>教員コメント ⇒アンケートの結果をわかりました。毎学期授業を改良してみます。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒いいえ、アンケートはそのまま大丈夫です。</p>	

ズグスタ リチャード	Issues in Asian Anthropology
<p>教員コメント ⇒昨年より理解しやすい授業を行いたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒学生と教員がうまくコミュニケーション取れるよう努力しました。</p>	